

# 2022年版 環境経営レポート



発行年月日 2023年 10月 31日

啓 大 建 設 有 限 会 社

## 目 次

1. 組織の概要	1
2. 対象範囲（認証・登録範囲）、レポートの対象期間及び発行日	2
3. 環境経営方針	3
4. 環境管理組織体制	4
5. 環境経営目標	5
6. 環境経営計画	6
7. 環境経営目標の実績	7
8. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組み内容	7
9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	10
10. 代表者による全体評価と見直し・指示の結果	12
11. その他の取組	13

発行日：2023年 10月 31日

発行責任者：環境管理責任者 武田 圭吾

次回発行予定： 2024年 10月 頃

## 1. 組織の概要

【事業所名】 啓大建設有限会社

【代表者氏名】 代表取締役 武田 圭吾

### 【所在地】

本社 〒781-0270

高知県高知市長浜4550番地

土場機材置場 高知県高知市長浜6572番地1…倉庫床面積：70㎡

倉庫資材置場 高知県高知市長浜3274番地1…倉庫床面積：178㎡

### 【環境管理責任者氏名及び担当者連絡先】

環境管理責任者氏名 代表取締役 武田 圭吾

連絡先担当者 取締役 武田 園子

連絡先 TEL: 088-842-8123

FAX: 088-842-8132

E-mail: [keidai@iris.ocn.ne.jp](mailto:keidai@iris.ocn.ne.jp)

### 【事業活動の内容】

建設業(主に土木一式等の工事を行っています。)

#### 建設業許可

許可番号 高知県知事 特-2 第2881号

許可年月日 2020年5月16日

建設業の種類 土木工事業 とび・土工工事業 舗装工事業 鋼構造物工事業  
石工事業 浚渫工事業 水道施設工事業 解体工事業

### 【事業規模】

設立年月日 1976年12月設立

資本金 20,000千円

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
完成工事高 (百万円)	228 (356)	171	179 (691)	71 (502)
従業員数 (名)	13	13	13	14
事業所敷地面積 (m <sup>2</sup> )	100	100	100	100
事業所延べ床面積 (m <sup>2</sup> )	102	102	150	150

会計年度 9月 ~ 8月

## 2. 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日

【対象範囲（認証・登録範囲）】	啓大建設株式会社 会社（全活動、全組織、全従業員）
【レポートの対象期間】	2022年9月～2023年8月
【環境経営レポートの発行日】	2023年10月31日
【作成責任者】	武田 園子
【次回環境経営レポートの発行予定】	2024年10月予定

### 対象となる持続可能な開発目標（SDGs）範囲

登録日 2021年10月22日



SDGs NO.	項目	当社対象有無	備考
1	貧困をなくそう		オーガニック
2	飢餓をゼロに		オーガニック、フェアトレード
3	すべての人に健康と福祉を		高齢者雇用
4	質の高い教育をみんなに	○	環境教育の実施
5	ジェンダー平等を実現しよう	○	障害者雇用
6	安全な水とトイレを世界中に	○	水道使用、節水、雨水利用
7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	○	再生可能エネルギー使用
8	働きがいも経済成長も		高齢者雇用、障害者雇用
9	産業と技術革新の基礎をつくろう	○	低燃費、長寿命化、環境負荷低減
10	人や国の不平等をなくそう		高齢者雇用、障害者雇用
11	住み続けられるまちづくりを	○	CO2削減、エコドライブ
12	つくる責任つかう責任	○	コピー用紙削減、環境配慮工事
13	気候変動に具体的な対策を	○	CO2削減、省エネ、環境配慮工事
14	海の豊かさを守ろう		下水道、排水処理の場合
15	陸の豊かさを守ろう		緑化、植林、社有林の保全
16	平和と公正をすべての人に	○	寄付、環境教育
17	パートナーシップで目標を達成しよう		寄付、環境教育

### 3. 環境経営方針

#### 【環境経営理念】

啓大建設は土木工事業を行っています。雄大な太平洋を近くに望み、景勝地、桂浜に隣接しており人と環境に優しい企業活動をモットーに、地域社会の一員であることを自覚し、あらゆる場面において環境保全を意識し、継続的改善による環境経営を行っていきます。

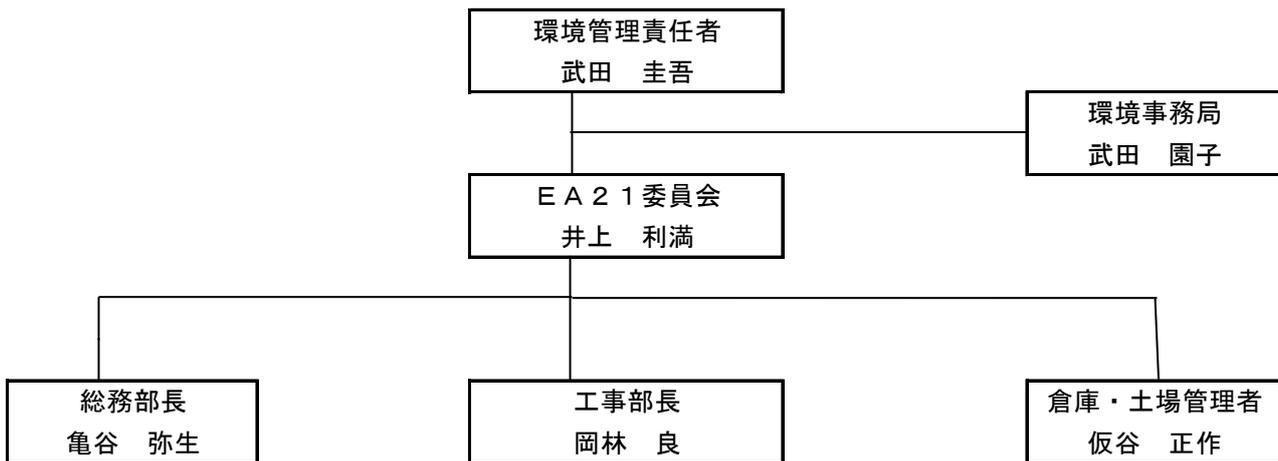
#### 【基本方針】

1. 建設工事において、環境負荷の少ない工事（設計、施工）を行います。
2. トラック・重機・車輛の燃料使用量削減により、二酸化炭素排出量を削減します。
3. 事務所・現場における電力使用量の削減により、二酸化炭素排出量を削減します。
4. 建設工事及び事務所における廃棄物発生量の削減、再利用及びリサイクルを行います。
5. 事務所における水使用量の削減により排水量を削減します。
6. 建設現場における化学物質排出について配慮します。
7. 事務用品及び調達資材のグリーン購入を推進します。
8. 環境関連法規及び条例等を遵守します。
9. 環境経営方針は広く従業員に周知徹底します。
10. 環境経営レポート等環境情報について広く外部公表いたします。

改定日 2019年9月1日

代表取締役 武田 圭吾

#### 4. 環境管理組織体制



環境経営システム 役割・責任・権限表

	役割・責任・権限
代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境経営に関する統括責任</li> <li>・ 環境経営システム実施に必要な人、設備、費用、時間、技能・技術者を準備</li> <li>・ 環境管理責任者を任命</li> <li>・ 経営における課題とチャンスの明確化</li> <li>・ 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知</li> <li>・ 環境経営目標、環境経営計画・環境管理組織体制を承認</li> <li>・ 代表者による全体評価と見直し・指示実施</li> <li>・ 環境経営レポートの承認</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境経営システムの構築、実施、管理</li> <li>・ 環境関連法規等の取りまとめ表を承認</li> <li>・ 環境経営目標、環境経営計画・環境管理組織体制を確認</li> <li>・ 環境活動の取組結果を代表者へ報告</li> <li>・ 環境経営レポートの確認</li> </ul>
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境管理責任者の補佐、E A 2 1 委員会の事務局</li> <li>・ 環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施</li> <li>・ 環境経営目標、環境経営計画・環境管理組織体制原案の作成</li> <li>・ 環境活動の実績集計</li> <li>・ 環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理</li> <li>・ 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施</li> <li>・ 環境関連の外部コミュニケーションの窓口</li> <li>・ 環境経営レポートの作成、公開</li> </ul>
部門長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自部門における環境経営方針の周知、従業員への環境教育訓練実施</li> <li>・ 自部門に係る環境経営計画の実施、達成状況報告</li> <li>・ 自部門に係る緊急事態訓練の実施</li> <li>・ 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施</li> </ul>
従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚</li> <li>・ 決められた事を守り、自主的・積極的に環境活動へ参加</li> </ul>

## 5. 環境経営目標

### (1) 単年度目標

項目	総量・ 原単位	単位	基準年 2020年度	2022年度 目標 2022.9~2023.8
売上高		百万円	171	
燃料使用量				
ガソリン使用量	総量	(ℓ)	7,605	7,453
	原単位	(ℓ/百万円)	44	38
軽油使用量	総量	(ℓ)	7,667	7,514
	原単位	(ℓ/百万円)	45	38
灯油使用量	総量	(ℓ)	527	516
電力使用量	総量	(kWh)	8,106	7,944
	原単位	(kWh/百万円)	47	40
CO <sub>2</sub> 排出量	総量	(kg-CO <sub>2</sub> )	43,017	42,157
	原単位	(kg-CO <sub>2</sub> /百万円)	251.6	
用水使用量	総量	(m <sup>3</sup> )	61	60
一般廃棄物排出量	総量	(kg)	1,050	1,029
産業廃棄物排出量	総量	(t)	30	29
産業廃棄物再資源化率	総量	(%)	100	100
グリーン購入	総量	(%)	86	90
環境負荷の少ない工事	総量	(%)	100	100
環境美化活動	総量	(回)	12	12

\* 1. 電力のCO<sub>2</sub> 排出量については、電気事業者別のCO<sub>2</sub> 排出係数（2019年度実績）  
（令和3年1月7日公表）の四国電力の調整後排出係数0.000528（kg-CO<sub>2</sub> / kWh）を使用した。

\* 2. グリーン購入量は、製品購入金額全体に対する環境商品の購入金額割合（%）

\* 3. 環境負荷の少ない工事

○環境負荷の少ない材料（リサイクル材、県産品等）の使用

○型枠、工事看板への間伐材の使用

○低騒音、排出ガス対策型重機の使用

○濁水防止対策の実施

### (2) 中長期目標

項目	総量・ 原単位	単位	2020年度 実績（基準年）	2022年度 目標	2023年度 目標	2024年度 目標
売上高		百万円	171	200	200	200
燃料使用量						
ガソリン使用量	総量	(ℓ)	7,605	7,453	7,377	7,301
	原単位	(ℓ/百万円)	44.5	37.7	37.3	36.9
軽油使用量	総量	(ℓ)	7,667	7,514	7,437	7,360
	原単位	(ℓ/百万円)	44.8	38.0	37.6	37.2
灯油使用量	総量	(ℓ)	527	516	511	506
電力使用量	総量	(kWh)	8,106	7,944	7,863	7,782
	原単位	(kWh/百万円)	47.4	47	46	46
CO <sub>2</sub> 排出量	総量	(kg-CO <sub>2</sub> )	43,017	42,157	41,726	41,296
	原単位	(kg-CO <sub>2</sub> /百万円)	251.6	210.8	208.6	206.5
用水使用量	総量	(m <sup>3</sup> )	61	60	59	59
一般廃棄物排出量	総量	(kg)	1,050	1,029	1,019	1,008
産業廃棄物排出量	総量	(t)	30	29	29	28
産業廃棄物再資源化率	総量	(%)	100	100	100	100
グリーン購入	総量	(%)	86	90	100	100
環境負荷の少ない工事	総量	(%)	100	100	100	100
環境美化活動	総量	(回)	12	12	12	12

## 6. 環境経営計画

項目		活動内容	担当者	期間
CO2 排出量 削減	燃料使用量	○車両・重機のアイドリングストップの徹底	各現場責任者	通年
	削減	○車両・重機の整備、点検の徹底	各現場責任者	通年
		○急発進・急ブレーキ等の運転はしない	各現場責任者	通年
		○現場への乗合い運転	各現場責任者	通年
		電力使用量	○エアコンの温度管理	各現場責任者
	削減	○不要な電気製品の電源OFF	各現場責任者	通年
		○退室時の消灯確認（現場事務所・本社）	各現場責任者	通年
		○照明器具の買い替え検討（LED照明）	本社	通年
用水使用量削減 (排水量削減)		○節水の徹底	各現場責任者	通年
		○地下水の利用	各現場責任者	通年
廃棄物削減	一般廃棄物	○印刷前チェックによりミスコピーをなくす	総務部	通年
		○封筒の再利用	総務部	通年
		○コピー用紙の両面使用	総務部	通年
		○作成文書の簡素化や1枚ベスト運動	総務部	通年
		○社内連絡の電子化	総務部	通年
		○ゴミの分別処理	総務部	通年
	産業廃棄物	○分別処理の徹底	各現場責任者	通年
		○マニフェスト管理	各現場責任者	通年
		○産業廃棄物はできるだけ、再資源化処理業者に委託処理する	各現場責任者	通年
グリーン購入		○エコマーク商品の積極購入	各現場責任者	通年
		○詰め替え商品を使う	各現場責任者	通年
環境負荷の少ない工事		○低騒音・排出ガス対策型重機の使用	各現場責任者	通年
		○型枠・看板の間伐材の使用	各現場責任者	通年
		○濁水・防塵防止対策	各現場責任者	通年
		○環境負荷の少ない材料（リサイクル材、県産品等）の使用	各現場責任者	通年

## 7. 環境経営目標の実績とその評価

### 2022年度の実績

環境経営目標	単位	基準年 2020年度 の実績値	2022年度目標 (-2%) 2022.9-2023.8	2022年度実績 2022.9-2023.8	目標値比 増減率 (%)	評価 達成○ 未達成×	
ガソリン使用量	(ℓ)	7,605	7,453	4,093	54.9%	○	
軽油使用量	(ℓ)	7,667	7,514	13,523	180.0%	×	
灯油使用量	(ℓ)	527	516	0	皆減	○	
電力使用量	(kWh)	8,106	7,944	28,349	356.9%	×	
CO <sub>2</sub> 排出量	総排出	(kg-CO <sub>2</sub> )	43,017	42,157	59,353	140.8%	×
	原単位	(kg-CO <sub>2</sub> /百万円)	251.6		118.2	47.0%	○
用水使用量	(m <sup>3</sup> )	61	60	65	107.6%	×	
一般廃棄物排出量	(kg)	1,050.0	1,029.0	170.0	16.5%	○	
産業廃棄物排出量	(t)	29.55	29	177.68	607%	×	
産業廃棄物再資源化率	(%)	100	100	100	100%	○	
グリーン購入	(%)	86	90	54	60%	×	
環境負荷の少ない工事	(%)	100	100	100	100%	○	
環境美化活動	(回数)	12	12	12	100%	○	

※1. 電力のCO<sub>2</sub>排出係数は、電気事業者別のCO<sub>2</sub>排出係数（H29年度実績）（令和3年1月7日公表）の四国電力の調整後排出係数0.528kg-CO<sub>2</sub>/kWhを使用した。

※2. グリーン購入量は、製品購入金額全体に対する環境製品購入金額割合（%）

※3. 環境負荷の少ない工事

○環境負荷の少ない材料（リサイ・O型枠、工事看板への間伐材の使用

○低騒音、排出ガス対策が多重機○濁水防止対策の実施

## 8. 環境経営計画の取組み結果とその評価、次年度の取組み内容

1. CO<sub>2</sub>排出量は上記のとおり40.8%増加した、特に電力使用量の増加が影響した。

軽油使用量（80%増加）は建設重機の使用が増加したが、ガソリン使用量は45%減少し目標達成できた。

電力使用量は本社事務所は14.4%削減、建設現場での使用量が大きく増加した。

CO<sub>2</sub>排出量は原単位評価では、基準値比47%で約53%削減し目標を達成した。

全体として本社事務所では節電等ガソリンも含め環境意識の向上によるものと判断した。

2. 用水使用量は、約8%増加した。節水を徹底する。

3. 一般廃棄物排出量は大きく減少した。基準年は本社の工事中で増加していた。

4. 産業廃棄物排出量は約6倍に増加した。河川改修工事の既存構造物取壊しのため

コンクリート殻を大量に排出した。全て再資源化されている。

5. グリーン購入はコピー用紙だけで半減しているが、工事用資材は可能な限り再生品使用に努めている。

6. 地域美化活動の回数は12回で達成した。次年度も積極的に取り組みを行う。

●次年度の取組み内容……事業内容が変わらないため、次年度も継続する。

## 具体的な取組状況

### 1. CO<sub>2</sub> 排出量削減

#### (1) 電力使用量削減



全室内照明をLED照明にした。

会議室



事務室



工務室

## 2. 環境美化活動



現場周辺の道路清掃を行いました。  
(現場全件)



## 3. CO2削減に役立つ寄付



## 9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

### (1) 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

法規名	適用条項	具体的内容	点検頻度 測定時期	担当者	遵守 状況	確認日
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	第3条	事業者の責務 事業活動に伴って生じた廃棄物を自らの責任において適正に処理	必要時	武田	○	9/30
	第7条の13項	○一般廃棄物収集運搬基準に従った収集運搬表示、書面備付義務	必要時	武田	○	9/30
	第12条	産業廃棄物の事業者の処理 産業廃棄物の委託契約	必要時	各現場責任者	○	9/30
	第12条の三	産業廃棄物管理票（マニフェスト）の交付	廃棄物排出時	各現場責任者	○	9/30
	第12条の三7項	マニフェスト交付状況報告書の作成及び都道府県知事（高知県知事）への提出	年1回 毎年6月末	武田	○	9/30
	第14条	産業廃棄物収集運搬業の都道府県知事の許可（5年毎に更新）	期限切れ 3ヶ月前	武田	○	9/30
	第14条の一12項	産業廃棄物処理基準による収集運搬、処分				
	規則第8条	○保管場所の表示 見易い箇所に掲示板を設置 (縦60cm以上×横60cm以上)	必要時	武田	○	9/30
資源の有効な利用の促進に関する法律 (資源有効利用促進法)	第4条	土砂、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、木材等の減量化及びリサイクル	必要時	各現場責任者	○	9/30
建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律 (建設リサイクル法)	第5条	○建設資材廃棄物の発生抑制、分別解体等及び建設資材廃棄物の再資源化等費用の低減努力 ○建設資材廃棄物の再資源化により得られた建設資材を使用する努力	必要時	各現場責任者	○	9/30
	第9条 第10条	○分別解体等の実施 解体：床面積80m <sup>2</sup> 以上 新築・増築：床面積500m <sup>2</sup> 以上 ○対象建設工事は7日前までに都道府県知事に届出	必要時	各現場責任者	○	9/30
騒音規制法	第6条	○特定施設の設置届 (特定施設設置工事開始30日前までに市町村長に届出)	設置工事開始時	各現場責任者	○	9/30
	第14条	○特定建設作業の実施の届出 (建設作業開始7日前までに市町村長に届出)	必要時			
振動規制法	第6条	○特定施設の設置届 (特定施設設置工事開始30日前までに市町村長に届出)	設置工事開始時	各現場責任者	○	9/30
	第14条	○特定建設作業の実施の届出 (建設作業開始7日前までに市町村長に届出)	必要時			
浄化槽法	第10条	○年1回の浄化槽の保守点検、清掃実施	年1回	武田	○	9/30
	第11条	○年1回の水質検査実施				

高知県環境基本条例	第6条	○事業者の責務 公害防止、自然環境保全、廃棄物の適正処理	必要時	武田	○	9/30
高知市火災予防条例	第31条	○少量物危険物貯蔵の消防署への届出 (指定数量の1/5以上指定数量未満の危険物貯蔵)	必要時	武田	○	9/30
フロン排出抑制法  (解体工事(改修工事))	第37条	○解体前にフロン類機器設置有無を確認、発注者に書面説明 記録3年間保存義務  ○第1種特定製品管理者は当該フロン類機器を第1種フロン類充填回収業者に引き渡さなければならない  ○機器の廃棄を委託された場合「委託確認書」の回付と保存  及びフロン類充填回収業者の「引取証明書」の受理と写しの 保存(3年間)  ○引き取り業者回収済照明の確認	必要時	亀谷	○	8/26
(機器の所有者(管理者)によるフロン漏えい点検)		○簡易点検:3ヶ月に1回以上 ○定期点検:1年に1回以上等(専門業者が実施) ○点検・整備の記録	年4回	亀谷	○	8/26
大気汚染防止法 (解体工事)	第18条の17	解体等工事受注者は、石綿使用の有無について事前に調査し、発注者へ調査結果を書面で説明するとともに説明するとともに、その結果等を解体等工事場所へ掲示	必要時	各現場責任者	—	—
労働安全衛生法	第5条 (レベル1)	○作業開始前14日前までに労働基準監督署に建築工事計画届、建築物解体等作業届を提出	必要時	各現場責任者	—	—
	(レベル2)	○レベル2も計画届 ○作業開始前に建築物解体等作業届を届出	必要時			
	(レベル3)	○けい酸カルシウム板1種(破碎時) ○仕上げ塗材を電動工具で除去する場合、ビニルシートで隔離し湿潤	必要時			

## (2) 環境関連法規・条例等の違反、訴訟等の有無

2021年9月より2022年8月まで、環境関連法規等への違反、訴訟及び外部からの苦情・要望等はありませんでした。

代表者

10. 代表者による全体評価と見直し・指示の結果

■定期見直し  
□臨時見直し

見直しに必要な情報				代表者による見直し	
環境管理責任者の報告及び改善提案				変更の必要性の有無・指示事項	
<b>【取組状況の評価結果】</b> ①環境関連法規制等の遵守状況 遵守できている ②問題点の是正処置及び予防処置の状況 問題ありません ③前回までの代表者の指示事項への対応 なし <改善提案> なし <b>【環境経営目標・環境経営計画の達成状況】</b>				<b>【環境経営方針】</b> 変更の必要性： □有      ■無  継続していく  <b>【環境経営目標・環境経営計画・環境管理組織体制】</b> 変更の必要性： □有      ■無  基本的には継続していく、 一般廃棄物排出量の見直しが必要。	
目標項目	目標値 達成状況	経営計画 達成状況	コメント (目標値、活動計画に対するコメント)	<b>【その他】</b> 変更の必要性： □有      ■無  エコアクション21はシステムとして有効に機能している	
燃料使用量	×	△	発電機使用のため。		
電力使用量	×	△	本社は節電に取り組んでいる。現場は施工方法によるものである。		
CO <sub>2</sub> 排出量	△	△	原単位評価では達成した。		
用水使用量	△	△	各自、節水にとりくめている。		
一般廃棄物排出量	×	×	大幅に減量できている。		
産業廃棄物排出量	×	○	マニフェストの管理、分別等はよくできている。受注工種により産廃が増えた。		
産業廃棄物再資源化率	○	○			
グリーン購入量	△	△	全体の購入額は少額だが、購入量のコピー用紙が占める割合が多くエコ率が下がっている。		
環境負荷の少ない工事件数	○	○	よく取り組んでいる。		
<改善提案> 今後の課題として、コピー用紙の選定を考えなければならない。				<b>【総括】</b> 基準年度はブロック製作と橋梁工事で産業廃棄物が少ない工種だったのに比べ、今期は河川改修工事で発電機を24時間使用する施工方法だった為、軽油と電気の使用量が大幅に増えた。産業廃棄物も既存構造物を取壊した際のコンクリート殻が多かったため目標値を達成できなかったが、想定内の排出量だと思います。一般廃棄物排出量は引越しに伴い前年度までに廃棄し終えたので、今年度からはこれくらいの水準でいきたいと思う。グリーン購入は購入額自体が少額でその中でのコピー用紙代金が多くを占めている為グリーン購入率がさがっているため検討の余地がありそうだ。	
<b>【周囲の変化の状況】</b> ①外部コミュニケーション記録より ②環境関連法規制等の動向他 <改善提案>					
代表者が自ら得た情報					

## 11. その他の取組

### 1. 自然保護団体への支援

支援団体	支援内容	支援年
環境の杜こうち	交通エコポイント活用社会還元事業	2016年
環境の杜こうち	交通エコポイント活用社会還元事業	2017年
環境の杜こうち	交通エコポイント活用社会還元事業	2017年
高知県森と緑の会	緑の募金	2017年
環境の杜こうち	交通エコポイント活用社会還元事業	2018年
高知県森と緑の会	緑の募金	2018年
環境の杜こうち	交通エコポイント活用社会還元事業	2019年
高知県森と緑の会	緑の募金	2019年
環境の杜こうち	交通エコポイント活用社会還元事業	2020年
高知県森と緑の会	緑の募金	2020年
環境の杜こうち	交通エコポイント活用社会還元事業	2021年
高知県森と緑の会	緑の募金	2021年
環境の杜こうち	交通エコポイント活用社会還元事業	2022年
環境の杜こうち	交通エコポイント活用社会還元事業	2023年度
高知県森と緑の会	緑の募金	2023年度